

ちょっと読んでみませんか(令和六年お盆)

第 3 話 『 “ 難しい ” という言葉 』 ～本源寺副住職 本間健司

前回のプリントでお話ししましたように、今年は本源寺御開山(お寺を開いた僧侶)である日健(にちけん)上人の400遠忌という大きな節目の年に当たります。また、本源寺を発祥とする白糸小学校の開校150周年でもあります。

この大きな節目の年に、本源寺では「入退寺式」(住職継承式)を挙行し、私が住職の任に就かせて頂くことになりました。立場が変わってもあまり気負うことなく、今までと同じようにこのプリントも続けさせて頂きたいと思います。

入退寺式は次の日程で行う予定です。ちなみに、白糸小150周年式典も同日学校にて執り行われることになっています。

十月五日(土曜日 大安)	午後一時四五分 山門より行列
(午後一時より受付)	午後二時 入退寺式法要

檀信徒様に限らず、どなた様でもどうぞお気軽にご参拝頂き、式を観覧して頂くければ幸いです。服装は普段着でも結構です。

さて今回のプリントでは、「難しい」という言葉について、あらためて考えてみたいと思います。以前ある本で、このような専門家の意見を読んだことがあります。

“ 難しい ” という言葉は出来るだけ使わないようにしてください。なぜならば、“ 難しい ” という言葉を口にした途端に、それにチャレンジしようとする自分自身で心に壁を作ってしまったって、意欲や創造力にブレーキをかけてしまうからです。また、チャレンジできない時の自分への「言い訳」にしてしまうのです。自分が発する言葉に一番大きな影響を受けてしまうのは、ほかでもない自分自身であることを憶えておいて下さい。

なるほど、その通りかも知れないな…、と納得しながら読んだことを覚えていきます。

ところが、私たちが読むお経『法華経(妙法蓮華経)』の中で、実は、“ 難しい ” という言葉が何度も使われているのです。お釈迦様亡き後に『法華経』の教えを伝え広めていくことについて、お釈迦様は弟子たちに対して「それはとても難しいことだよ！」と繰り返し念を押しています。

さきほどの専門家の意見からすると、教えを広めようとする意欲のあるお弟子さんたちの足を引っ張っているようにも感じますが、とても有名な『此経難持（しきようなんじ）』の教えを読むと、お釈迦様の深い意図と慈悲を感じ取ることができます。現代語訳と合わせて見ていきましょう。

しきようなんじ　　にやくざんじしや　　がそくかんぎ　　しよぶつやくねん
此経難持　　若暫持者　　我即欢喜　　諸仏亦然

（この法華経の教えを信じぬくことは大変難しいのです　だからほんの少しの期間であっても信じる事が出来た者がいたなら私は心から喜ぶし他の仏たちも同様です）

によぜしにん　　しよぶつしよたん　　ぜそくゆうみよう　　ぜそくしようじん
如是之人　　諸仏所歎　　是即勇猛　　是即精進

（そのような者は　全ての仏たちから次のように称賛されるのです「これこそ実に勇氣ある者であり、真の精進を實踐する者である」と）

ぜみようじかい　　ぎようずだしや　　そくいしつとく　　むじようぶつどう
是名持戒　　行頭陀者　　則為疾得　　無上仏道

（また　その者こそ本当の意味で戒律を守り　欲望を制する者であると言えますし　またその者が速やかに無上の悟りを得ることは疑いないのです）

のうおらいせ　　どくじしきよう　　ぜしんぶつし　　じゆうじゆんぜんじ
能於来世　　読持此経　　是真仏子　　住淳善地

（未来において　この法華経の教えを信じ読む者は　真に仏の子であり　平穏な境地に生きる者となるでしょう）

ぶつめつどい　　のうげごぎ　　ぜしよてんにん　　せけんしげん
仏滅度後　　能解其義　　是諸天人　　世間之眼

（もし仏が滅した後にも　この経の意義を理解する者がいたならば　その者は神々や人間世間において「真理を見通す眼」となつて人々を導くことでしょう）

おおいせ　　のうしゆゆせつ　　いつさいてんにん　　かいおうくよう
於恐懼世　　能須臾説　　一切天人　　皆応供養

（ましてや　多くの不安や恐れ渦巻く世になつても　ほんの一瞬でもこの法華経の教えを人々に説く者がいたならば　一切の神々や人々の供養を受けるに値するのです）

お釈迦様は、一番大切な『法華経（妙法蓮華経）』の教えを信じることに広めることの「難しさ」を説きながらも、一方で、その困難な事に挑もうとする者を褒め称え、励ましてくれているのです。

「ほんの少しの期間であつても」「ほんの一瞬でも」素晴らしいんだと、私たちに最初から完璧を求めずチャレンジしてみることに尊さを教えてくれている経文と言えるのではないのでしょうか。

日蓮聖人は佐渡に流罪にされた際、佐渡島に渡る船の上でこの文章を何度も読み、自分自身を鼓舞されたとも伝えられています。

『此経難持』の最後の行に説かれる「於恐懼世」（多くの不安や恐れ渦巻く世）は、現在の世界の日本の状況とも重なるのではないだろうか。

このような困難な時代にこそ、お釈迦様の教えのように“難しい”かも知れないけれど、いや“難しい”と分かっているからこそ、結果を欲張らずに「ほんの少しでも」挑戦されている皆さん一人一人の想いが重なり、いずれ大きな光となって時代を明るく照らしていくと私は信じます。仕事でも身の回りのことでも。

さて、私自身も会社員から僧侶となり、まだわずか二十年です。分からないことや至らないことが多々あります。しかし『此経難持』で教えてくれているように、失敗を恐れず結果を欲張らずに一步一步挑戦や実践を積み重ねていきたいと思っています。

ぜひ御一緒に、困難な時代にめげることなくチャレンジして参りましょう！

“難しい”に挑む私たちを、仏様はいつも応援してくれているのですから…

合掌 南無妙法蓮華經